

学長定例記者会見要項

日 時： 令和6年5月9日（木） 11:00～11:45

場 所： 法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

発表事項

1. 山形大学は2024年、開学75周年を迎えます
2. 山形大学実験機器共同利用システムの運用を開始しました
3. 江目宏樹准教授・関根智仁准教授が令和6年度文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞
4. 目標年間治療患者数達成の報告と保険適用部位の拡大について～山形大学医学部東日本重粒子センター～
5. 山形大学アントレプレナーシップ教育プログラムでのビジネスアイデアから新事業創出～金山町の新たな未来を拓く株式会社メーカー～
6. “オットセイ”のブロニー君の実像が明らかに！～最新の研究成果が学術誌に掲載&成果に基づく公開講座も開催～

お知らせ

1. やまがた共創塾「やまがたモデル」を活用したカーボンニュートラル人材育成プログラムを開講します。
2. 初心者向けドローン講習会 Vol.3 を開講～仕事等で利用を検討している方に向けた社会人向け講座～
3. 山形大学男女共同参画及びダイバーシティセミナー「LGBTQA 当事者のつまずきポイント～山形在住当事者の視点から～」の開催について

(参 考)

○ 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：令和6年6月6日（木） 11:00～11:45

場 所：法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

学長定例記者会見（5月9日）発表

1. 山形大学は2024年、開学75周年を迎えます

学 長

たまた ひでとし
玉手 英利

2. 山形大学実験機器共同利用システムの運用を開始しました

理事（研究・情報担当）

いづか ひろし
飯塚 博

3. 江目宏樹准教授・関根智仁准教授が令和6年度文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞

学術研究院准教授（大学院理工学研究科担当）

ごうのめ ひろき
江目 宏樹

学術研究院准教授（大学院有機材料システム研究科担当）

せきね ともひと
関根 智仁

4. 目標年間治療患者数達成の報告と保険適用部位の拡大について～山形大学医学部東日本重粒子センター～

山形大学医学部東日本重粒子センター長

大学院医学系研究科先進的医科学専攻重粒子線医学講座教授

いわい たけお
岩井 岳夫

山形大学医学部東日本重粒子センター副センター長

医学部附属病院放射線治療科長

さとう ひらく
佐藤 啓

5. 山形大学アントレプレナーシップ教育プログラムでのビジネスアイデアから新事業創出～金山町の新たな未来を拓く株式会社メーカー～

アントレプレナーシップ教育研究センター長

株式会社メーカー代表取締役

やまがた産業支援機構常務理事

おのでら ただし
小野寺 忠司

ながおか やすお
長岡 康雄

わがつま さとる
我妻 悟

6. “オットセイ”のブロニー君の実像が明らかに！～最新の研究成果が学術誌に掲載&成果に基づく公開講座も開催～

学術研究院准教授（人文社会科学部主担当）

山形大学認定都市・地域学研究ユニット所員

おぼた けいすけ
小幡 圭祐

令和6年（2024年）5月9日

山形大学は2024年、開学75周年を迎えます

【本件のポイント】

- 山形大学は、山形県師範学校など5つの教育機関を母体に、1949年に新制国立大学として設置され、地域と共に歩んで今年で開学75周年を迎える。
- 「地域に生き、地域を活かし、地域を創る」を掲げ、地域に愛され、地域と共に発展する大学を目指し、2024年を「山形大学創立75周年記念事業」年（山大3Q year）とし、教職員・学生、OB・OG、地域の皆様と共に展開する。
- 記念事業として、令和6年度学長特別講演会及び山形大学創立75周年記念講演会（仮）を開催する。

75th ANNIVERSARY
YAMAGATA UNIVERSITY

【概要】

山形大学は、山形県師範学校など5つの教育機関を母体に、1949年に新制国立大学として設置され、地域と共に歩んで今年で開学75周年を迎えます。

山形大学の三つの理念の一つは「地域創生」であり、2022年度に本学の将来ビジョン「つなぐちから。山形大学」を策定し、その中で社会と「共に育ち、共に創り、共に生きる」を実践することを誓いました。

「地域に生き、地域を活かし、地域を創る」を掲げ、地域に愛され、地域と共に発展する大学を目指し、2024年を「山形大学創立75周年記念事業」年（山大3Q year）とし、教職員・学生、OB・OG、地域の皆様と共に展開していきます。

記念事業として、以下のとおり令和6年度学長特別講演会及び山形大学創立75周年記念講演会（仮）を開催しますのでご案内します。

【令和6年度学長特別講演会について】

日時：令和6年6月5日（水）14時00分～15時30分

場所：小白川キャンパス人文社会科学部301教室

タイトル：GO BEYOND—変化に挑む、変化を起こす—

講師：TOPPANホールディングス株式会社 代表取締役社長 磨 秀晴氏（昭和54年山形大学工学部卒）

詳細については別添チラシをご確認ください。

【山形大学創立75周年記念講演会（仮）】

日時：令和6年10月25日（金）15時開場、16時開演（90分）

場所：山形県生涯学習センター 遊学館ホール（2階）

演者：渡辺 えり 氏（劇作家・演出家・女優）

詳細未定、決まり次第、山形大学HPにてご案内します。

その他、山形県内各地区及び宮城県・仙台市において、学生・教職員・地域の皆様（卒業生を含む）を対象に、講演会・シンポジウム等を予定しております。

お問い合わせ

総務部総務課秘書広報室

TEL 023-628-4008 メール yu-koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



山形大学 学長
玉手 英利
TAMATE Hidetoshi

講演
主旨

2024年、山形大学は開学75周年を迎えるにあたり、「地域に生き、地域を活かし、地域を創る」を掲げ、地域に愛され、地域と共に発展する大学を目指し、75周年記念事業を教職員・学生、OB・OG、地域の皆様と共に展開していきます。

本事業の一つとして、今回、山形大学工学部を卒業され、TOPPANホールディングス株式会社代表取締役社長CEOとしてご活躍中の磨 秀晴氏を講師として迎え、学長特別講演会を開催します。

人口減少、デジタル化、グローバル化が一層進む中で、どのような未来社会の将来像を想定して、企業戦略を考え、経営を行っているのか、学生が在学中に各自の専門分野以外に身につけるべきこと、経験を積むべきことについて、様々な角度からお話をいただきます。

講師

TOPPAN ホールディングス株式会社
代表取締役社長 CEO

磨 秀晴 氏

MARO Hideharu



PROFILE

1979年3月	山形大学工学部高分子化学科卒業	2012年6月	常務取締役就任
1979年4月	凸版印刷株式会社入社	2013年4月	シンガポール支社長
2002年10月	パッケージ事業本部 相模原工場長	2014年4月	経営企画本部長及び国際事業部担当
2004年4月	パッケージ事業本部 製造技術本部長	2016年6月	専務取締役就任
2006年4月	パッケージ事業本部 第三営業本部長 兼 海外本部長	2018年6月	代表取締役副社長執行役員就任
2009年4月	関西事業本部副事業本部長	2019年6月	代表取締役社長就任
2009年6月	取締役就任	2023年10月	TOPPAN ホールディングス株式会社 代表取締役社長 CEO 就任
2011年4月	国際事業部長		

講演
内容

現在、私たちは予測不能な時代に生きています。このような状況下では、企業はもちろん、一人ひとりが自ら変化を予測し迅速に行動をとることが極めて重要だと考えています。

今回の講演では、創業以来120年以上にわたるTOPPANの「変革と挑戦」の歴史とともに、我々が切り開いてきた幅広い事業内容や新しく取り組んでいる事業をご紹介します。

併せて、母校山形大学卒業後、私自身が様々な課題に直面した際「GO BEYOND」、すなわち「期待を越える」ため挑戦をしてきたその歩みを振り返りながら、将来を見極め、自らのキャリアプランを自ら作り出し行動することの大切さを、後輩の皆さんに伝えたいと思います。

TOPPANの真の姿と、TOPPANがもつたくさんの可能性を、皆さんにご理解いただけるよう、豊富な事例を通じてお話しします。

日時

2024.6.5 WED 14:00 ~ 15:30

会場

小白川キャンパス
人文社会科学部 301教室

開催形式

対面及びオンライン
(Zoom ウェビナー)

GO BEYOND
— 変化に挑む、変化を起こす —

申込方法：URL または QR コードからお申し込みください。
申込者には、本講演会参加に必要な情報を開催日前日までにメールでお知らせします。

<https://forms.office.com/r/rdh2Jkv9EY>

本学にお越しいただく際には、公共交通機関や有料駐車場などのご利用をお願いいたします。
また、近隣の施設や店舗には駐車いただかないようお願いいたします。



令和6年5月9日

山形大学実験機器共同利用システムの運用を開始しました

【本件のポイント】

- 令和6年4月1日、山形大学が保有する実験機器・設備を利用予約できるシステムが稼働した。
- オンライン上で予約等の手続を行うことができる大学全体の一元的なシステムとなる。
- 本システムの稼働により、本学が所有する共通設備の有効活用が図られるとともに、本学が目指す「コモンズ」としての役割が一層強化されることが期待される。



【概要】

山形大学は、人文社会科学部・地域教育文化学部・理学部のある小白川キャンパス、医学部のある飯田キャンパス、工学部のある米沢キャンパス、農学部のある鶴岡キャンパスと、6学部・4キャンパスを備え、多様な研究設備を保有しております。

令和6年4月1日、本学では「実験機器共同利用システム」の運用を開始しました。これにより、各キャンパスで保有する多様な実験機器・設備を、オンライン上で予約等の手続を行うことにより、外部の方々にもご利用いただくことができるようになりました。

令和6年4月1日現在、ご利用可能な研究設備として299件登録しております。（随時更新・有料（料金については実験機器・設備によって異なります。HPをご確認ください。））

本学が所有する先進的な機器のみならず、顕微鏡・プリンタ等、様々な機器をご利用いただくことができます。地域企業・関係機関の皆様をはじめ、地域の中高生の実験等にもご利用いただけますので、お気軽にアクセスしてください。

【背景】

本学では各キャンパスに多様な研究設備を保有しておりますが、これまでは全学的に外部に公開されている共同利用システムがなかったため、本学内の教職員の使用が主となっております。「実験機器共同利用システム」の運用開始により、各キャンパスで保有する多様な実験機器・設備を、オンライン上で予約等の手続を行うことにより、外部の方々にもご利用いただくことができるようになりました。

【公開ページ】

山形大学実験機器共同利用システム

<https://yucf2.id.yamagata-u.ac.jp/eportal>



【今後の展望】

本学が所有する先進的な機器のみならず、顕微鏡・プリンタ等、様々な機器をご利用いただくことができます。地域企業・関係機関の皆様をはじめ、地域の中高生の実験等にもご利用いただくことで、本学が所有する共通設備の有効活用を図るとともに、本学が目指す「コモンズ」としての役割が一層強化されることが期待されます。

お問い合わせ

研究情報部研究推進課研究企画担当（野寺）

TEL 023-628-4839 メール yu-k-kenki@jm.yamagata-u.ac.jp

山形大学ホームページからアクセス
→研究→研究機器の利用・依頼分析

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/research/facility/>



(共用設備例 1)

(共用設備例 2)



NMR (400MHz一般)

所属

米沢キャンパス / 工学部
共同機器分析センター (化学分析)

分類(カテゴリ)

核磁気共鳴装置 (NMR) / 400MHz NMR装置

メーカー

日本電子

型番

JNM-ECA400

利用料金 (時間)

ケース	料金/単位
機群利用 (ネットワーク外部・民間企業)	¥1,000 / 10分
技術代行 (ネットワーク外部・民間企業)	¥3,000 / 10分
機群利用 (学術研究機関・共同研究機関)	¥400 / 10分
技術代行 (学術研究機関・共同研究機関)	¥1,200 / 10分



振動試料型磁力計

所属

小白川キャンパス / 理学部
物性評価部門

分類(カテゴリ)

物性計測/成分分析/磁気特性測定装置(SQUID,VSM)

メーカー

Hayama Inc.

型番

仕様

付属装置

用途

磁性材料のM-H曲線、保磁力、残留磁束密度の評価が行えます。(測定範囲±1.5T,室温)

利用料金 (時間)

ケース	料金/単位
基礎講習 (学内・教育機関・非営利組織)	¥3,000 / 回
装置利用 (学内・教育機関・非営利組織※3,000円/サンプル)	¥0 / 回
基礎講習 (民間企業)	¥7,000 / 回
装置利用 (民間企業※7,000円/サンプル)	¥0 / 回
技術代行 (全機関※50,000円~/サンプル)	¥0 / 回

利用料金 (試料)

試料名	料金/個
サンプル※装置利用 (学内・教育機関・非営利組織)	¥3,000
サンプル※装置利用 (民間企業)	¥7,000
サンプル※技術代行 (民間企業) ※50,000円~/サンプル)	¥50,000

令和6年（2024年）5月9日

江目宏樹准教授・関根智仁准教授が 令和6年度文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞

【本件のポイント】

- 江目宏樹准教授・関根智仁准教授が令和6年度文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞した。
- 江目准教授の「光熱変換過程の解明とスペクトル熱制御機構に関する研究」および、関根准教授の「複合有機材料の機能化と生体模倣型触覚デバイスに関する研究」が対象の業績となった。
- 江目准教授の研究は、熱輸送制御技術の変革、省エネルギー化および気候変動に柔軟に対応する社会の構築等に資すると期待される。
- 関根准教授の研究成果は、ロボットに触覚機能を与えるデジタルスキンや、「体験」の情報を即時通信できる医工連携を基軸とした遠隔手術システムなどへの応用が期待される。



▲受賞された関根准教授(左)と江目准教授(右)

【概要】

この表彰は、「科学技術に関する研究開発、技術振興、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、我が国の科学技術水準の向上に寄与すること」を目的として文部科学省が定めているもので、江目准教授および関根准教授は萌芽的、独創的かつ高度な研究開発能力を有する若手研究者を対象とする「若手科学者賞」受賞者として選ばれました。なお、令和6年度は応募者数 392 名に対して、100 名の若手研究者が受賞されました。

対象となった業績は、江目准教授の「光熱変換過程の解明とスペクトル熱制御機構に関する研究」、関根准教授の「複合有機材料の機能化と生体模倣型触覚デバイスに関する研究」。

江目准教授の研究により、理論的な最適化設計手法を確立し、持続可能な社会の実現に資する自由自在なスペクトル制御技術として、熱くなりにくい黒色コーティング（冷たい黒）を開発しました。ふく射の「波長選択制御」を実現したことで、黒色を維持しながら太陽光下で一般的な黒色塗料よりも 10°C 以上低い温度を維持できます。また、光が熱に変換される超短時間現象を詳細に検証し、熱振動に対して、入射光の情報が失われることなく反映されることを示しました。

関根准教授の研究により、複合化された有機材料は溶液中で過凝集するなどの化学的な課題に対して、材料のミクロな相分離構造に着目することで、当該凝集効果を克服し、高機能デバイスを実現しました。これにより作製された柔らかい有機触覚デバイスは、ロボットに触覚機能を与えるデジタルスキンや、「体験」の情報を即時通信できる医工連携を基軸とした遠隔手術システムなどへの応用が期待できます。

お問い合わせ

山形大学米沢キャンパス事務部総務課（広報）

TEL 0238-26-3005 メール yu-koukoho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

江目准教授

【背景】

環境問題の一つである都市部におけるヒートアイランド現象は、ビル群における対流による熱移動だけでなく、空調機や自動車からの排熱などで高温となったビルや道路からのふく射伝熱が重要です。そのような環境問題に対し、「SDGs 目標 11：包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市及び人間居住を実現する」の実現のため、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの開発が環境省により推進されています。家庭部門におけるエネルギー消費量は多いのが現状です。特に冷暖房のエネルギー消費量の割合は大きく、これらがより環境問題を加速させています。

このエネルギーを削減するために世界各地の気候に合わせて外壁材の色の工夫がなされています（図1）。例えば、夏のように暑い気候の地域では、冷房負荷の低減が望ましいため、太陽光の反射に効果的な白色が多用されています。対して、冬のように寒い気候の地域では、暖房負荷の低減が望ましいため、太陽光の吸収に効果的な黒色が多用されています。しかし、四季がある地域や多くの場面では温度環境に合わせて外壁の太陽光に対する応答が切り替わることが望ましいです。また、住宅などの屋根材や外壁材では、常に人の目にさらされるため、視覚的な観点から外観を変えることは好ましくありません。

ナノ粒子と電磁波の相互作用はふく射伝熱制御に有効な手段です（図2）。また、同時に視覚的な設計要求にも答えるため、波長選択技術も必須です。即ち、スペクトル熱制御機構の実現が望まれています。

江目准教授は、ナノ粒子の光学特性を応用し、ふく射の「波長選択制御」を実現したことで、熱くなりにくい黒色コーティング（冷たい黒）を世界で初めて開発しました。黒色を維持しながら太陽光下で一般的な黒色塗料よりも10°C以上低い温度を維持できます。

また、ナノ粒子を用いた太陽光熱回収技術において、性能向上を実現させるため、現象の詳細理解（光熱変換のメカニズム解明）を目指しました。第一原理計算と過渡吸収分光法を用いて、光が熱に変換される超短時間現象を評価しています。熱振動（格子駆動）に対して、入射光の情報が失われることなく反映されることを示しました。

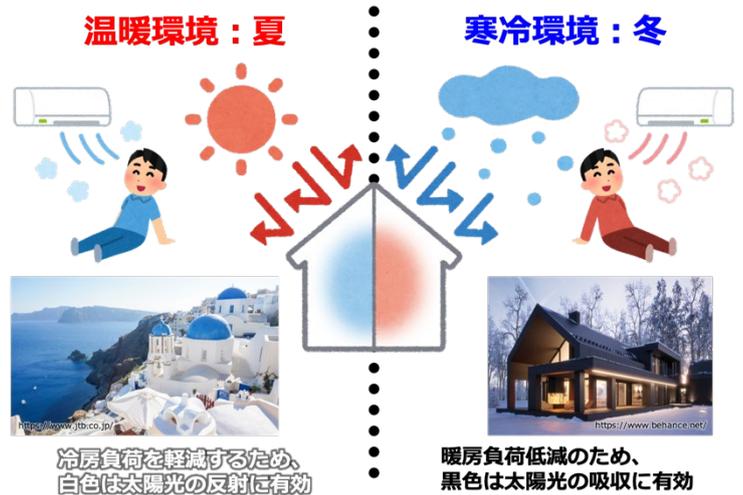


図1 家屋における理想的なスペクトルスイッチング制御技術

冷房負荷を軽減するため、白色は太陽光の反射に有効

暖房負荷低減のため、黒色は太陽光の吸収に有効

革新的なふく射伝熱制御研究

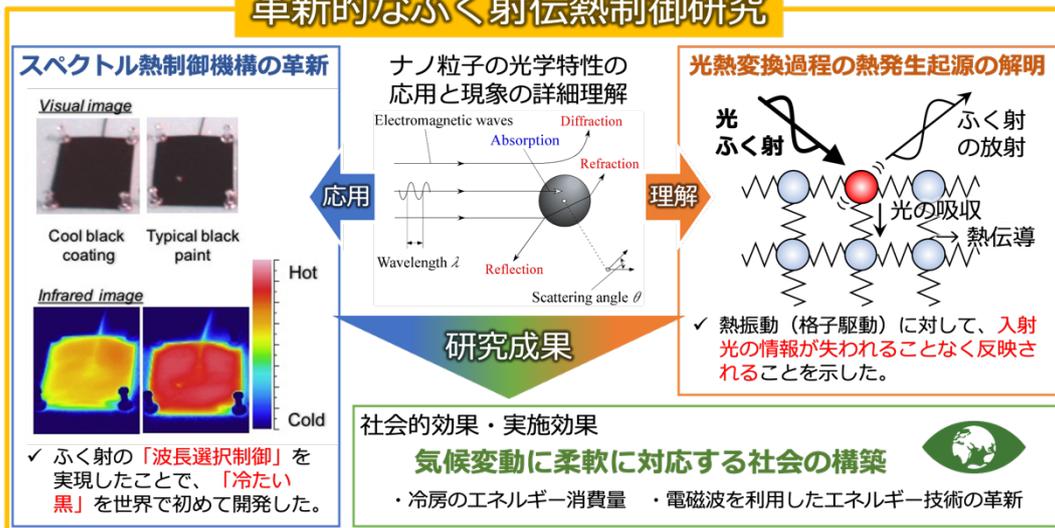


図2 江目准教授の主要な研究成果及びそれらの関連の概念図

【研究手法・研究成果】

江目准教授は、これまで査読付き学術論文43報、総説2報、著書2編の研究発表を行っています。散乱性媒体によるふく射伝熱制御の研究者として、国内外で高い評価を受けており、招待講演として、国内会議4件・国際会議5件の招聘実績がある他、2016年度日本伝熱学会奨励賞、2019年度日本機械学会奨励賞（研究）、2019年

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

度日本熱物性学会奨励賞など、今回の受賞のほか、17件の受賞実績があります。世界のふく射伝熱研究者が結集し、粒子を用いたふく射伝熱の新しい国際的な教科書（M.P. Menguc, et al., Light, Plasmonics and Particles, Elsevier, 2023.）を執筆する際、日本から唯一、分担執筆（Qin, Kim, Gonome, Lee, Chapter 19 - Plasmonic nanofluids for solar thermal applications）に参画しています。新聞（山形新聞, 2023年10月15日、朝日新聞, 2023年10月29日など）、Yahoo ニュース（2020年5月15日）、Smart News（2023年10月29日）や講談社ブルーバックス（<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/71875>）などの多様なメディア媒体（計11報）で紹介されています。また、子供向けの図鑑（自然から学ぶすごい技をもつ生き物図鑑, 文研出版, 2019.）の執筆に協力するなど、メディア媒体を活用し、国民・社会に広く研究活動を発信しています。また、研究代表として、科研費若手 B（2017-2020）、総務省消防庁 消防防災科学技術研究推進制度（2019）、科研費若手 B（2021-2023）、JST 創発的研究支援事業（2021-2027）、NEDO 官民による若手研究者発掘支援事業／マッチングサポートフェーズ（2022）など多数のプロジェクトに採択されています。

【今後の展望】

「冷たい黒」は社会実装され、冷房のエネルギー消費量の削減に寄与し、省エネルギー化および気候変動に柔軟に対応する社会の構築に資することが期待されます。また、光熱変換現象の物理は電磁波のエネルギー形態の変遷を利用した技術の革新を生み出すことが期待されます。

関根准教授

【背景】

近年、PC やスマートフォンの普及に伴い、簡単に Web で様々な情報にアクセスできるようになりました。現状、これらの情報取得はテキストや動画など視覚や聴覚によるものが主流です。今後は、これらに加えて、触覚や嗅覚、味覚などのデータをデジタル化していくことで、さらにより多くの情報を取得できる未来技術の構築が期待されています。そのようなヒトの五感のデジタルデータ化において、本研究では触覚に着目し、ヒトがモノを触った感覚などをリアルタイムに検出できるデバイスとシステム、およびそれらの材料の包括的研究に取り組んできました (図1)。

関根准教授は、機能性有機材料を用いてヒトの皮膚感覚を模倣した柔らかいセンサデバイスの開発に取り組んでいます。これは、圧力や温度、手触り感などヒトが有する皮膚感覚をデジタル検出できるデバイスを開発するもので、高感度に当該感覚を検出できる薄くて軽いセンサを指しています。これらにより、ヒトと同等以上の性能をもつ触覚検出機構をロボットや義手に搭載することが可能です。

しかし、これらのセンサを作製するには、①使用する材料の化学的な凝集に関する課題、②柔らかいセンサを作製する工程の最適化に関する課題、が問題視されており、触覚センサデバイスの実現は困難とされていました。そこで、関根准教授らは、有機材料のミクロな相分離構造に着目することで、当該凝集効果を克服しました。さらに、デバイス作製の工程をより効率的に改善することで高機能なセンサを実現しました。これにより作製された柔らかい有機触覚デバイスは、ロボットに触覚機能を与えるデジタルスキンや、「体験」の情報を即時通信できる医工連携を基軸とした遠隔手術システムなどへの応用に期待できます。



図1. 機能性有機材料を用いた触覚センサの構築

【研究手法・研究成果】

関根准教授は、塗布／印刷プロセスを活用した高性能な触覚センサを形成するために、機能性有機材料の複合化とその原理検証を行い、当該触覚センサからなる柔らかいデジタルスキンやウェアラブルデバイスを開発しています。

具体的には、化学的な凝集に関する課題において、溶媒／溶質間の分極モーメント差 ΔD が 4.0 D 以上の系において凝集が起きることを新たに見出し、当該 ΔD 差が相対的に小さい組み合わせを選択することが、極性を有する分散型溶液の構成に効果的であることを発見しました。また、ロボットハンド上に集積した有機マルチモーダルセンサを用いて、4種の触覚信号(圧力・温度・すべり・加速度)を 0.1 s 以内で高速かつ同時に検出することに成功しています。これらの成果は材料科学の分野では極めて高い Impact Factor をもつ Advanced Functional Materials 誌 (I.F. 19) などに掲載されています。加えて、Top10%論文選出や Editor's choice などの選出 7 件、各学術誌表紙などの選出 7 件の実績を有していることから、本研究の着眼点の優秀性を示しています。

これまでの関連する業績として、査読付き学術論文 58 報、著作・解説等 13 編 (分著含む) の研究発表を行っています。特に、有機材料科学と薄膜デバイス工学の学際的研究者として、国内外で高い評価を受けており、招待・招聘講演として、国内会議などで 20 件、国際会議で 5 件の実績があります。また、2020 年新化学技術研究奨

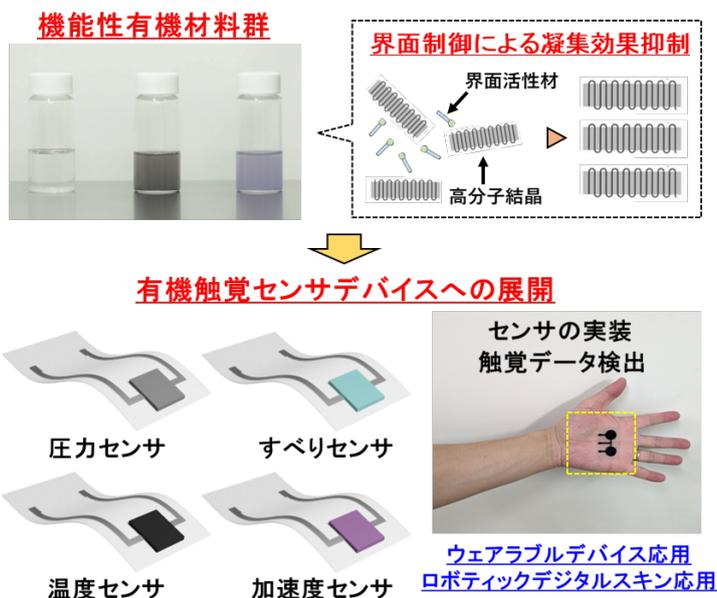


図2. 化学的な凝集効果の抑制とそのデジタルスキン応用

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

励賞や2024年山形県科学技術奨励賞など、今回の受賞のほか、7件の受賞実績（筆頭者としての受賞のみ）があります。また、研究代表として、JSTA-A-STEP機能検証フェーズ、およびトライアウト、JSPS科研費若手研究や各種研究財団など多数のプロジェクトに採択されています。さらに、国内外の研究機関や企業との共同研究も推進しており、産学連携を企図した取り組みも積極的に行っています。

【今後の展望】

これまで培ってきた柔らかい有機触覚センサ技術は、触覚情報をリアルタイムにデジタル化・通信することで、ヒトの「体験」をデータ化できる未来システムへの展開が期待できます。また、それらを構成する有機材料やデバイス特性の原理検証においては、化学や電気電子デバイス工学、情報通信学の垣根を超えた新学際領域の発展に役立つと考えられます。



令和6年（2024年）5月9日

目標年間治療患者数達成の報告と 保険適用部位の拡大について ～山形大学医学部東日本重粒子センター～

1. 目標年間治療患者数達成の報告

【本件のポイント】

- 令和5年度は、大学が目標としていた年間治療患者数 600人を超える662人の患者さんに重粒子線治療を行いました。

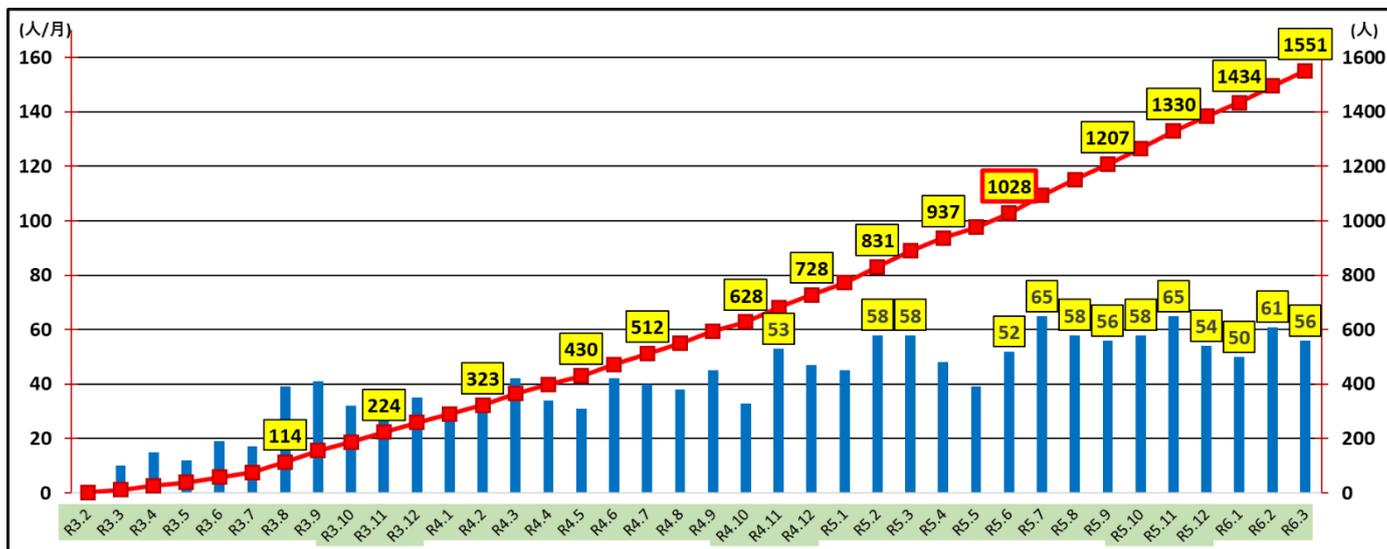
【概要】

第4期中期計画[※]において、令和9年度までに重粒子線治療患者数 600 人/年を達成することを目標として掲げてまいりましたが、本格稼働から2年目となる令和5年度に達成することができました。中期計画で掲げた目標を達成するということは、国立大学法人の評価においてきわめて重要であり、これを早々に達成できたことは意義深いことと言えます。今年度以降も着実に日々の治療を実施し、東北広域におけるがん医療に貢献できればと考えています。

※中期計画とは、国立大学法人が中期目標を達成するために作成した6年間の計画であり、文部科学大臣の認可を受けることとなっています。（国立大学法人法第31条）第4期：令和4年度（2022年度）～令和9年度（2027年度）詳細は大学HP参照

【重粒子線治療_実施件数/累積件数】

令和5年度実績：662人（前年度比 +138人）

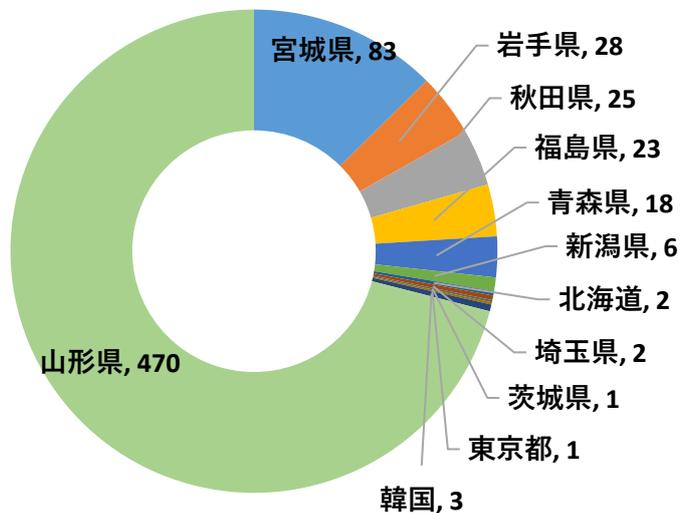


【部位別患者数】

部位(保険適用等)	(R3.2-) R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	合計
前立腺(保険)	12	353	422	455	1,242
頭頸部(保険)			13	24	37
骨軟部(保険)			8	21	29
大腸(保険)			9	14	23
脾臓(保険)			18	47	65
肝臓(保険)			19	54	73
肝臓(先進)			5	5	10
肝臓(肝内胆管)			7	9	16
肝臓(先進/転移)			5	12	17
肺(先進)			10	7	17
肺(先進/転移)				1	1
食道(先進)					0
腎臓(先進)			3	5	8
子宮(頸部腺癌)			1	3	4
子宮(先進)			1	1	2
リンパ節(先進)			3	4	7
計	12	353	524	662	1,551

【県・国別患者数】

令和5年度 662名



2. 保険適用部位の拡大

【本件のポイント】

- 令和6年6月1日（土）から重粒子線がん治療の公的医療保険適用となる疾患が拡大されます。

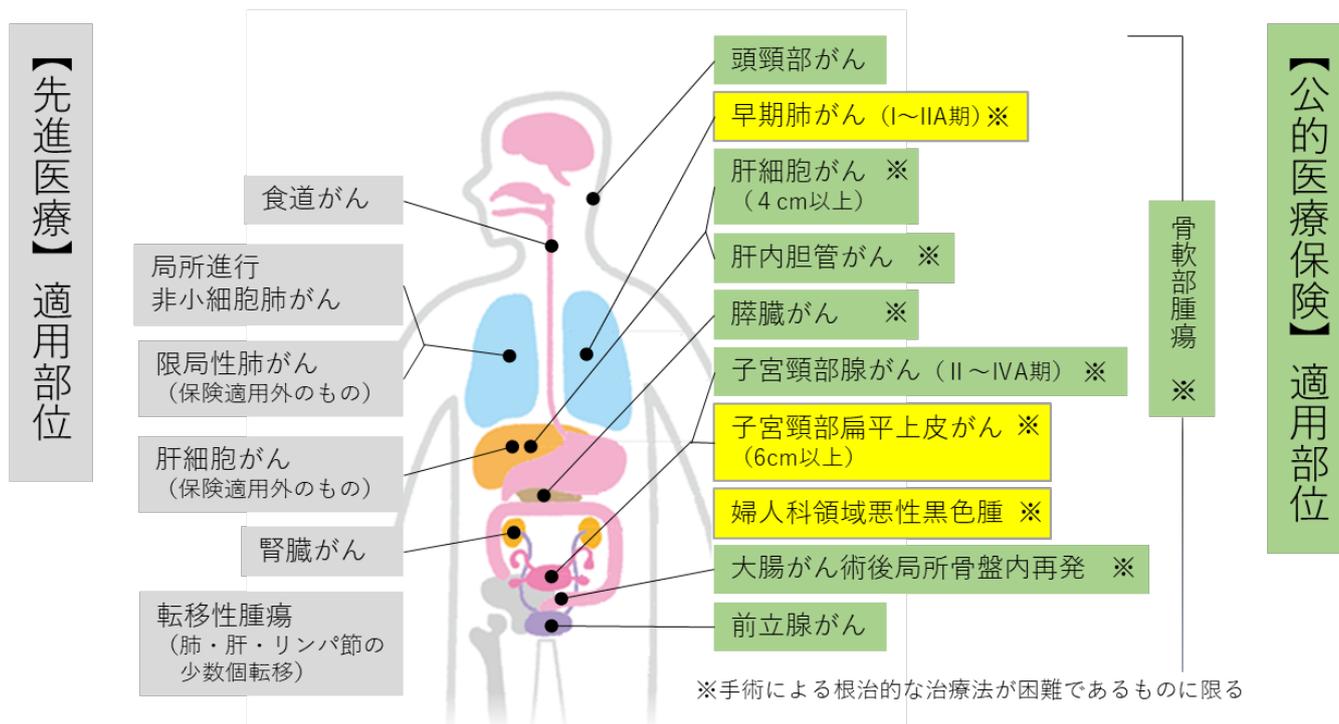
【概要】

6月1日から、新たに以下3つの疾患が重粒子線がん治療の公的医療保険適用に加わり、合計で11の疾患が保険適用となります。

- ・ 早期肺癌（I～IIA期）
- ・ 子宮頸部扁平上皮がん（長径6cm以上）
- ・ 婦人科領域悪性黒色腫

なお、今回新たに保険の対象となるのは、手術による根治的な治療法が困難であるものに限られます。

【6月1日以降の当院における重粒子線治療対象部位】



配布先：学長定例記者会見参加報道機関

【今後の展望】

6月から新たに3疾患に対して保険適用が拡大することで、今年度以降も当センターで治療を希望される患者さんは継続的に増えて行くものと予測しています。

がん治療の選択肢の一つとして、患者さんに当センターでの治療を検討していただけるよう、今後も継続して当センターにおける重粒子線がん治療に関する情報提供に努めます。12月15日には山形テルサにおいて市民公開講座の開催も企画していますので、詳細が決まりましたらまた広報させていただきます。

詳しい説明をご希望の場合は、山形大学医学部総務課庶務担当宛てに

「撮影・取材申込書」をご提出ください。

▼山形大学医学部HP（取材を希望するメディアの皆様へ）

<https://www2.id.yamagata-u.ac.jp/media/>

お問い合わせ

山形大学医学部東日本重粒子センター事務室

電話：023-628-5576

e-mail：yu-heavyion@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

URL：https://www.id.yamagata-u.ac.jp/nhpb/



山形大学医学部

東日本重粒子センター

EAST JAPAN HEAVY ION CENTER

FACULTY OF MEDICINE - YAMAGATA UNIVERSITY

PRESS RELEASE



令和 6年（2024年）5月9日

山形大学アントレプレナーシップ教育プログラムでの ビジネスアイデアから新事業創出 ～金山町の新たな未来を拓く株式会社メーカー～

【本件のポイント】

- アントレプレナーシップ教育研究センターで実施している新事業創出イノベーションプログラムにおいて創出されたビジネスアイデアに基づき、令和5年度社会人修了生が「株式会社メーカー」を設立し社会実装します。
- 地域課題解決を通して事業創出を目指す「山形県ソーシャルイノベーション創出モデル事業」(Yamagata yori-i project)の支援を受け、金山町の廃校施設（旧明安小学校）を活用し、トレーニングジム事業、ドローン導入支援事業等を行います。
- 山形大学では、令和6年度以降もより実践的なアントレプレナーシップ教育を実施し、自らイノベーションを起こし、地域創生を体現する人材の育成を目指していきます。



(旧明安小学校：金山町HPより)

【概要】

山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター（以下、「当センター」という）が企画・運営している、山形大学 i-HOPE 新事業創出イノベーションプログラム（以下、「同プログラム」という）の令和5年度の社会人修了生である長岡康雄氏が、金山町を拠点として新規未来事業を担う株式会社メーカー（以下、「同社」という）を令和6年4月に設立しました。

長岡氏は、同プログラムにおける、新事業創出に必要なマインドを形成し実践的なスキルを身につけるための教育を通じてビジネスアイデアを創出し、事業計画を具体化しました。同社では、地域課題解決を通して事業創出を目指す、山形県ソーシャルイノベーション創出モデル事業の支援を受け、金山町の廃校施設を活用し、ドローン導入支援事業、トレーニングジム事業等を行います。

（背景・目的）

経済センサス活動調査において、山形県の事業所新設率は全国でも下位の状況であり、今後の県内経済の活性化のため、県内の創業の増加、新事業の創出が必要となっています。新事業創出には、それを担う人材、地域の産業を牽引するイノベーションの担い手としての起業家の存在が必要であることから、当センターでは、自らイノベーションを起こし、地域創生を体現する人材の育成のためアントレプレナーシップ教育に注力しています。また、山形県では(公財)やまがた産業支援機構を実施主体とし令和4年度から、起業マインドを高め、起業の裾野を広げる施策として「Yamagata yori-i project」を実施しています。この取り組みを通じて、新たな存在価値・意義に基づくビジネスを創出し、利益を生み出すエコシステムにより経済効果を上げていくためのプロセス化を目指しており、本件は13件目の成果となります。なお、山形大学 i-HOPE 新事業創出イノベーションプログラムにおいては、同事業のモデルエリアである金山町、真室川町、鮭川村の地域課題をテーマにビジネスプラン構築および課題抽出・仮説検証のためのフィールドワークを実施しています。

（株式会社メーカーの廃校施設利用による事業案）

- ・建設現場の生産性向上に向けた地域資源の価値を見える化する事業
- ・グラウンド、体育館でのドローン体験と導入支援
- ・地域住民の健康増進を目的とした本格的トレーニングジムの開設
- ・教室を利用したIT機器の体験教室とビジネスマン向けのコワーキングスペース運営
- ・その他、最上地域の住民および企業に貢献できる事業

(山形県ソーシャルイノベーション創出モデル事業について)

産学官や産業などのセクターを超えた力を結集しデータを基に取り組む課題解決手法「コレクティブ・インパクト」を軸に、多様化する地域課題の解決やそれに伴う新規創業・事業創出を活性化していくプロジェクトです。活動に共感頂いた行政・企業・個人がボードメンバーとしてプロジェクトに参画しており、その数は現在、150（個人含む）に及んでいます。公益財団法人やまがた産業支援機構が事業主体となり、山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター長の小野寺教授がチーフコーディネーターを務めています。

<参考 URL> <https://yori-i.org/>

(今後の展望)

株式会社メーカーでは、初年度売上計画として2千万円を見込み事業を立ち上げ、今後、同社の最先端技術活用と地域の方々との連携強化により、若者が興味を持てる仕事と技術取得の支援、町外からの交流人口増に貢献できる事業を推進していく予定です。

また、アントレプレナーシップ教育研究センターでは、令和6年度も新事業創出イノベーションプログラムについて、フィールドワークワークへ向かうまでに、ビジネスプラン作成のためのフレームワークを身につけていただけるよう、かつ、講義でのインプットの確実な定着につながるよう講義・演習等のカリキュラムを強化し、引き続き新しい価値創造に挑戦する意欲を持った人材の育成を目指していきます。

お問い合わせ

山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター 齋藤・丸尾

TEL 023-628-4075 メール yu-entre@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

【連携機関／事業の概要】

○株式会社メーカー

代表者 | 長岡 康雄 代表取締役 (株式会社三友エンジニア代表取締役を兼務)

所在地 | 山形県金山町大字下野明 1696 番地 1

設立 | 令和6年4月

資本金 | 1000 万円

○公益財団法人やまがた産業支援機構

理事長 | 平山 雅之

設立 | 昭和36年6月

※令和6年4月1日より、公益財団法人山形県企業振興公社と
公益財団法人山形県産業技術振興機構が合併

所在地 | 山形市城南町一丁目1番1号 (霞城セントラル13階)

事業内容 | 県内中小企業等の振興を図り、県内企業の発展と地域経済の活性化に寄与することを目的に、
県内中小企業等の経営基盤の強化、経営の革新、創業の促進、技術・研究開発人材の育成等に関する支援を総合的に実施

○山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター

センター長 | 小野寺 忠司 (教授)

設立 | 令和4年4月 (令和5年4月から現センター名に変更)

所在地 | 山形市小白川町一丁目4番12号 (小白川キャンパス人文社会科学部3号館8階)

事業内容 | アントレプレナーシップ教育 (大学生、社会人、企業人、団体、中高生)

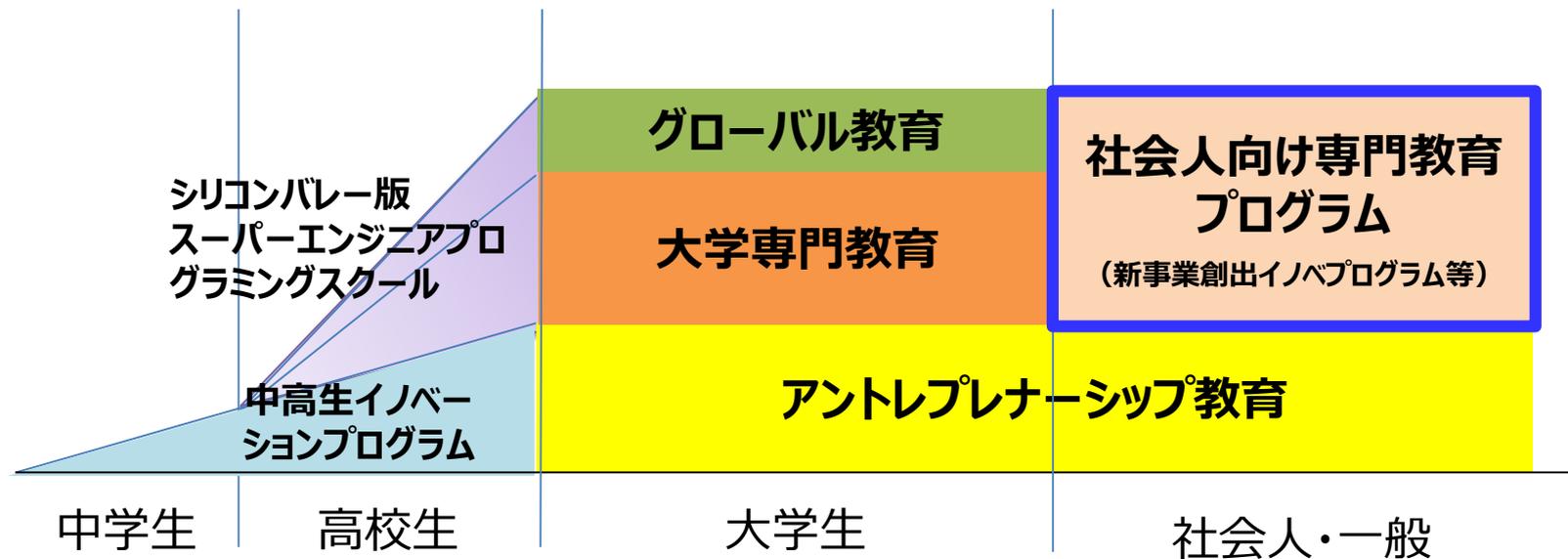
企業向けリーダーシップ教育、新事業創出教育

アントレプレナーシップに関する社会・地域との連携

アントレプレナーシップ教育プログラムでの ビジネスアイデアから新事業創出

山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター
センター長・教授 小野寺忠司

- 実践的な教育の3要素：アントレプレナーシップ、専門知識、グローバル力
- 大学教育をコアに、中高生、社会人・一般へと、一気通貫の教育プログラム



2017

2018

2019

2020

2021

2022

2023



文部科学省 次世代アントレプレナー育成事業 EDGE-NEXT
山形大学 人材育成プログラム EDGE-NEXT



山形大学 人材育成プログラム i-HOPE

評価

文部科学省 次世代アントレプレナー育成事業 (EDGE-NEXT)

終了時評価結果： **総合評価「S」を獲得**

総合評価	I. 目標達成度	II. 取組状況	III. 計画・改善 手法の妥当性	IV. 今後の 見通し
S	S	S	S	a

総合評価：【S】

優れたアントレプレナーシップ教育提供コンソーシアムのロールモデルとなる取組みであり、今後のイノベーション・エコシステムの持続的発展も大いに期待できる。

実績

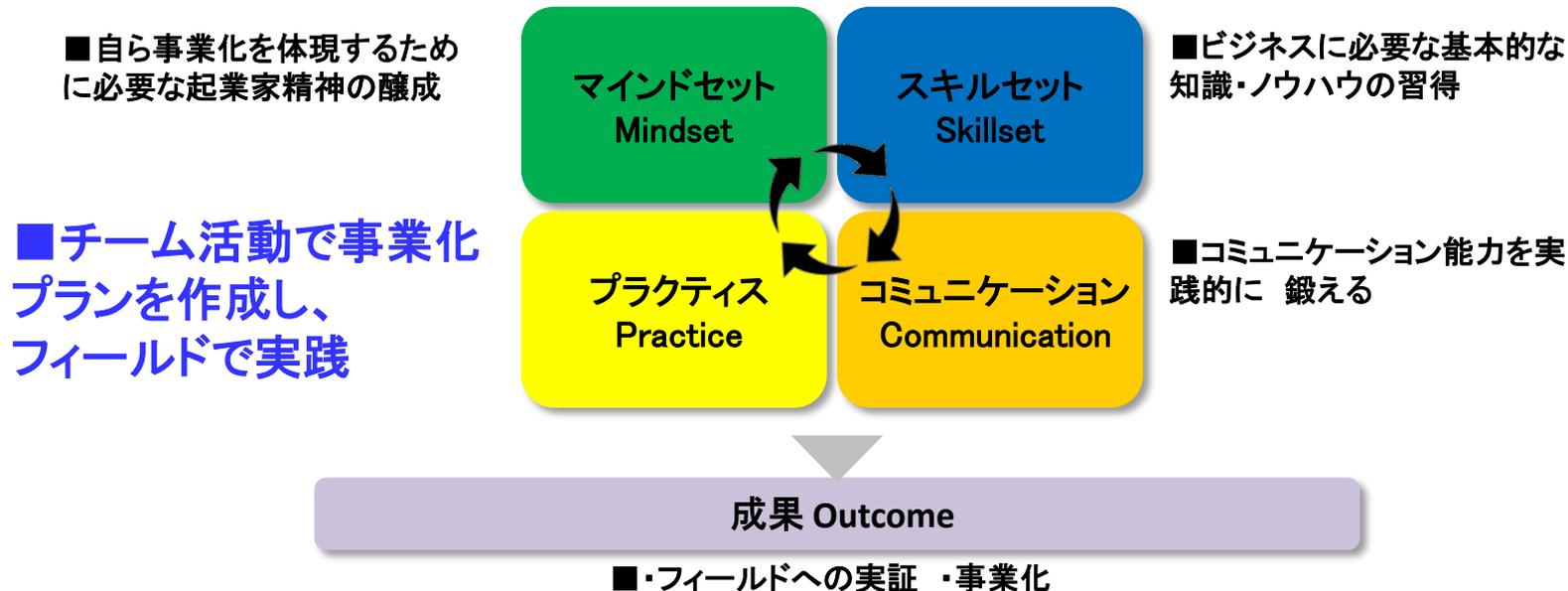
ベンチャー、新事業：36社
(2024/2月時点)

延べ受講者総数：約3,141人

文科省 人材育成プログラムEDGE-NEXT 5年間の経験と
山形大学の教育資産、事業経験豊かな外部講師陣による実践的な講義
アントレプレナー育成に向けたオリジナルプログラムを開講

＜自らイノベーション(事業化)を起こし、**地域創生を体現する人材**の育成＞

大学生・院生、社会人を対象に隔週土曜日 16回の講義、チームワークを実施



フィールドワーク・アイデア創出ワークショップ^⑤ 最上3町村にて実施

最上地区の地域課題を解決するビジネスプランを作成するために現地でヒヤリングを実施し、ビジネスアイデアを創出するワークショップ、チーム発表を実施。受講生60名、他関係者含め、**総勢83名が現地で参加**。

期 間： 7/22(土) - 7/23(日) 1泊2日の合宿形式

視察地： 金山町、真室川町、鮭川村

会 場： ホテルシェーネスハイム金山 (山形県金山町)

参加者： 総勢 83名

受講生： 60名 (他、7/23 Web参加 8名)

講師、メンター： 12名

地域コーディネーター： 6名

事務局： 5名

出席率：81%



	時間帯	内容
7/22 (土)	13:10-13:20	開会式
	13:30-17:30	フィールドワーク (地域視察) 3コースから選定(バス移動)
	18:00-18:30	ウエルカムイベント@シェーネスハイム金山 ご挨拶：金山町 町長 他
7/23 (日)	8:30-9:00	講義：廣川克也氏
	9:00-15:00	チーム・ワーク： ビジネスアイデア創出、メンタリング
	15:00-16:30	チーム発表： 3分発表 x19
	16:30-16:45	講評、閉会式



Yamagagta yori-i project (山形県ソーシャルイノベーション創出モデル事業) 概要

社会課題を「コレクティブ・インパクト」という手法により持続可能な方法で解決することを目指す

01
起業

社会課題解決型ビジネスモデルの構築

02
地域

ビジネス化により持続可能な地域課題解決策を確立

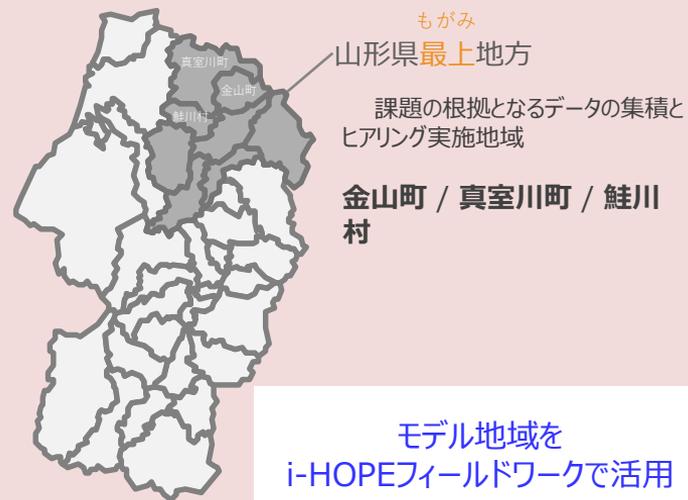
03
教育

未来のリーダー人材の育成

コレクティブ・インパクト

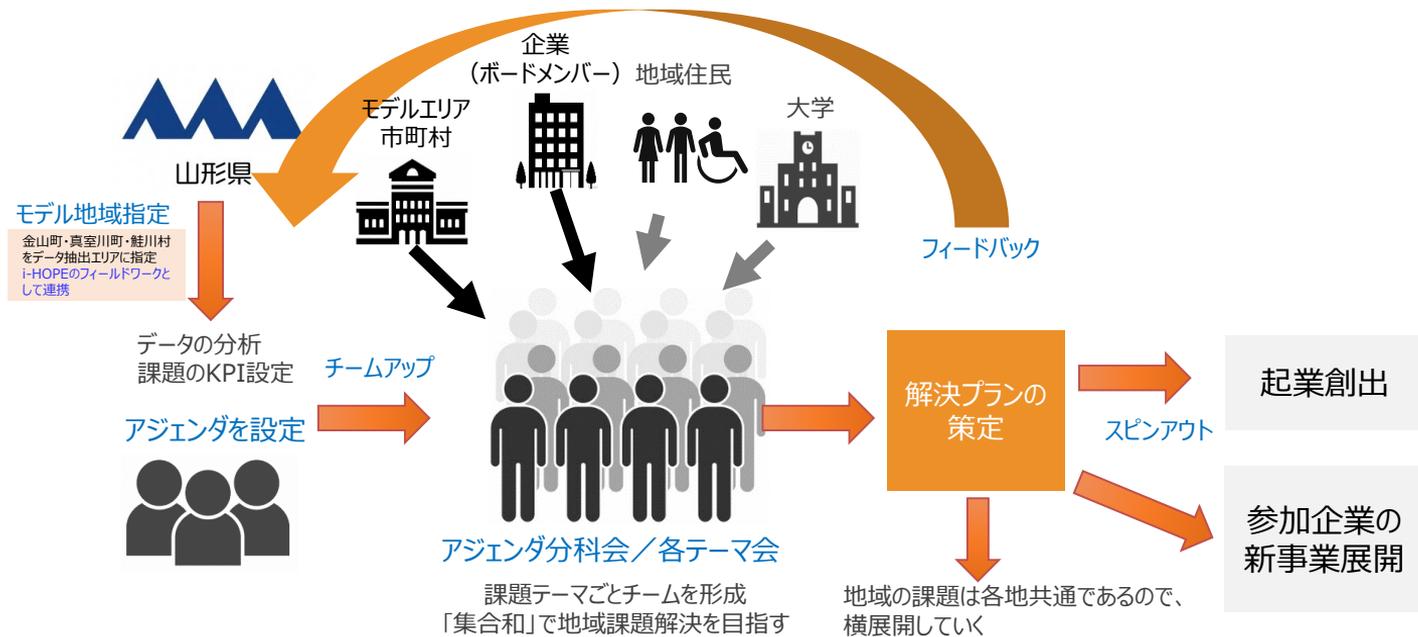
特定の社会課題に対して、ひとつの組織の力で解決しようとするのではなく、行政、企業、大学、NPO、基金、市民などがセクターを越え、互いに強みやノウハウを持ち寄って、同時に社会課題に対する働きかけを行うことにより、課題解決や大規模な社会変革を目指すアプローチ

事業のモデル地域／山形県最上地方



Yamagagta yori-i project (山形県ソーシャルイノベーション創出モデル事業) 事業スキーム

山形県版コレクティブ・インパクト / 社会実験として事業をスタートさせ、改善を繰り返し、事業としての精度を高めていく



課題解決に向けた
セクターを超えた取り組み

150の
ボードメンバー

×

約20の
ビジネスアイデア



R4、R5の2か年度で
12件の新事業、起
業を創出



事業創出 第13弾
株式会社メーカー設立

Yamagagta yori-i project (山形県ソーシャルイノベーション創出モデル事業) による支援

i-HOPE

山形大学・アントレプレナー

連携



Yamagata yori-i project

連携

金山町

真室川町・鮭川村

「地域資源」アジェンダが目指していること

経済活動に乗っていない地域資源を経済活動へ。伝統・芸術文化・地域資源の保全と活用。

本事業化のテーマ:

「自然の環境・遊休施設活用 x 最新テクノロジー」



x

Yamagata yori-i projectのサポート実績

- ・2023年度5月～ 長岡氏が「山形大学 人材育成プログラム i-HOPE 2023」受講。対象エリアとの訪問調整。
- ・アントレプレナー教育による地域課題解決型ビジネス創業への強い意志。オンラインでのメンタリング。
- 「i HOPE」プログラム終了後も、yori-i projectコーディネーターとして行政との調整を設立までサポート。



株式会社メーカー設立

代表者	<ul style="list-style-type: none">・代表者： 長岡康雄，代表取締役 (株式会社三友エンジニア代表取締役兼務)・所在地： 山形県金山町大字下野明1696番地1 (旧明安小学校)・設立 : 令和6年4月	 <p>(旧明安小学校：金山町HPより)</p>
設立の背景	<p>山形大学i-HOPE新事業創出イノベーションプログラムにおいて創出されたビジネスアイデアに基づき、山形県ソーシャルイノベーション創出モデル事業の支援を受け事業計画を具体化し新会社を設立。今後、金山町の廃校施設を利用し、人が集まり、若者が興味を持ち、地域の方々の健康増進等の地域の未来を拓くための事業を展開する。</p>	
主な事業案	<ul style="list-style-type: none">・建設現場の生産性向上に向けた地域資源の価値を見える化する事業・グラウンド、体育館でのドローン体験と導入支援・地域住民の健康増進を目的とした本格的トレーニングジムの開設・教室を利用したIT機器の体験教室とビジネスマン向けのコワーキングスペース運営・その他、最上地域の住民および企業に貢献できる事業	

令和6年（2024年）5月9日

“オットセイ”のブロニー君の実像が明らかに！ ～最新の研究成果が学術誌に掲載&成果に基づく公開講座も開催～

【本件のポイント】

- サーカス団「世界一週有田洋行会」の一員で、昭和2年（1927年）に山形市で開催された全国産業博覧会の会期中に命を落とした、柏山寺（はくさんじ）に眠る“オットセイ”のブロニー君について、生前に活躍する姿を収録したパンフレットが初めて見つかりました。
- パンフレットからは、ブロニー君の姿の他にも、これまで知られていなかったブロニー君の情報や、これまでの研究を裏付けるさまざまな事実も明らかになりました。
- 最新の研究成果は、7月に刊行予定の学術誌『サーカス学』第5号に掲載予定です。また、山形大学認定都市・地域学研究ユニットの公開講座「山形の魅力再発見パート22」の一環として、7月6日に実施する「世界一週有田洋行会と“オットセイ”のブロニー君」でも研究成果を社会に還元します。



新発見のパンフレット

【概要】

山形市の薬師公園の隣に位置する柏山寺には、サーカス団「世界一週有田洋行会」に所属する“オットセイ”、ブロニー君の墓があります。かねてより巷間では、ブロニー君が明治44年（1911年）5月8日の山形市北大火で焼け死んだという説が広く知られていました。ところが、ブロニー君が山形市北大火で死んだのではなく、昭和2年（1927年）9月11日から10月20日に山形市で開催された全国産業博覧会の期間中に命を落としたことを小幡が初めて解明し、研究成果が令和5年（2023年）に学術誌『サーカス学』第4号に掲載されました。

そして今回、昭和2年に有田洋行会が宣伝のために発行したパンフレットが見つかり、その中にブロニー君が芸を披露する様子が掲載されていました。また、パンフレットからは、“オットセイ”のブロニー君が実際はアシカであったとの推定を裏付ける記述のほか、ブロニー君が当時8歳であったこと、大正15年（1926年）5月末日にアメリカから来日し、有田洋行会に仲間入りしたことなど新しい事実も明らかとなりました。

ブロニー君を含むサーカスの“オットセイ”についての最新の研究成果は、7月に刊行予定の学術誌『サーカス学』第5号に掲載予定です。また、山形大学認定都市・地域学研究ユニットの公開講座「山形の魅力再発見パート22」の一環として、7月6日に実施する「世界一週有田洋行会と“オットセイ”のブロニー君」でも研究成果を社会に還元する予定です。

【公開講座「山形の魅力再発見パート22」】

- ・日時：令和6年（2024年）6月29日（土）・7月6日（土）・7月13日（土） 13時30分～16時（予定）
- ・場所：人文社会科学部1号館201教室
- ・講師・タイトル：
 - 松尾剛次（山形大学名誉教授）「光る君・最上義光」 ※6月29日・7月6日・7月13日の全3回実施
 - 中澤信幸（山形大学人文社会科学部教授）「山形の風土と言葉」 ※6月29日実施
 - 小幡圭祐（山形大学人文社会科学部准教授）「世界一週有田洋行会と“オットセイ”のブロニー君」 ※7月6日実施
 - 生田慶穂（山形大学人文社会科学部准教授）「最上義光の古典学—徳島市里見家所蔵資料から見えてきたこと—」 ※7月13日実施
- ・申し込み方法：山形大学認定都市・地域学研究ユニットまで
電話・FAX：023-628-4871（月・火・木・金午前）／メール：toshiken@human.kj.yamagata-u.ac.jp

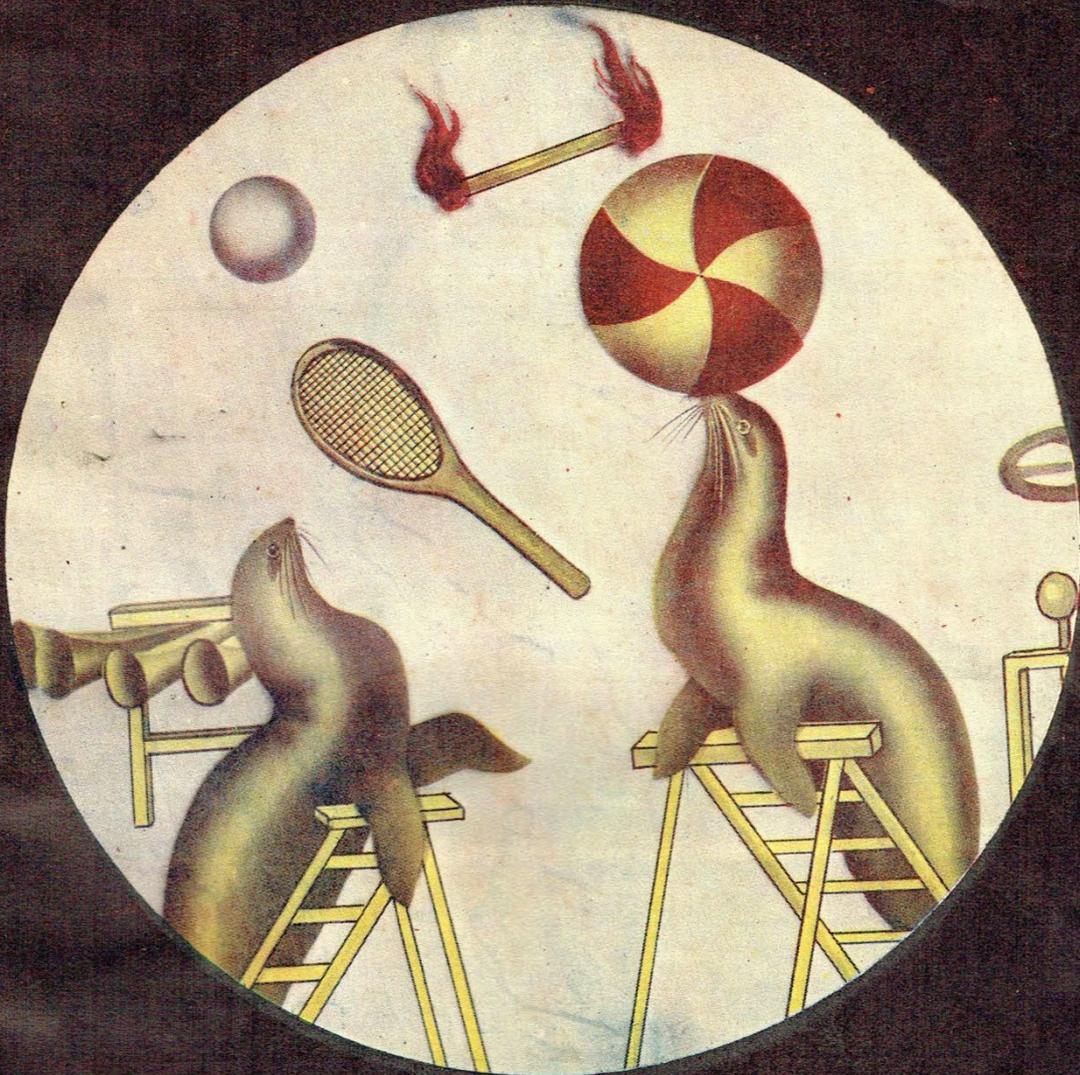
お問い合わせ

学術研究院准教授（人文社会科学部主担当／山形大学認定都市・地域学研究ユニット所員） 小幡圭祐
メール：obata@human.kj.yamagata-u.ac.jp

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

【「世界一週有田洋行会」パンフレット】※右がブロニー君

商 ARITA'S PRO



再製不許非賣品

◆オットセイ
 || 説明 ||
 使手……茨木氏
 手 毬
 高帽子
 車輪
 ステッキ
 蠟燭
 喇叭
 梯子
 ラケット
 中 拔
 火 棒
 綱 渡
 乗馬
 ◆オットセイ
 の名
 皆様の方から
 左ネ
 右プロニー

商 ROUND-SHOW

令和6年(2024年)5月9日
山形大学

*詳細は別添の資料をご覧ください。

1. やまがた共創塾「やまがたモデル」を活用したカーボンニュートラル人材育成プログラムを開講します。

本学と飯豊町が共同で開発したカーボンニュートラル「やまがたモデル」を活用できる人材を育成するプログラムを開講します。

環境省のデータでは把握できない自治体ごとの温室効果ガス排出量を既存のデータを用いることで可視化できる「やまがたモデル」の概要や、温室効果ガス排出量を可視化することのメリット、可視化の計算方法を学ぶことができるプログラムです。

【対象】山形県内及び近隣県の自治体職員（地域おこし協力隊含む）

【参加費】無料

【期間】2024年6月中旬～9月下旬（全4回）

【受講方法】Online(zoom)及び対面（会場：山形大学小白川キャンパス）

【申込先】<https://forms.office.com/r/cmrTbBHGGm>

【申込締切日】2024年6月7日（金）

2. 初心者向けドローン講習会 Vol.3 を開講～仕事等で利用を検討している方に向けた社会人向け講座～

空の産業革命とも呼ばれる無人航空機 UAV、いわゆるドローンに関する法律が日本でも整備され、建設・測量・農業・防災・運輸・映像など各種産業への応用が進んでいます。ドローンに関する知識・技能を備えた人材育成のため、ドローンの法律・操縦・活用に関する初歩的な講習を行います。

【日時】令和6（2024）年6月9日（日）9:00～16:00 [基礎知識・法律・制度等の座学、活用事例、操縦訓練]

令和6（2024）年6月16日（日）9:30～16:30 [屋内操縦体験]

※6月16日（日）は、9:30～16:30の内、いずれか1時間30分間の屋内操縦体験となります。

【場所】山形大学小白川キャンパス理学部棟および体育館

【講師】本山功（理学部主担当／専門 地質学・古生物学）

【受講料】15,000円（ドローンレンタル費、フライトシミュレーター利用料、イベント保険料を含む）

※会場までの交通費は、参加者の負担となります。

【対象】社会人 [定員] 12名

3. 山形大学男女共同参画及びダイバーシティセミナー「LGBTQA 当事者のつまずきポイント～山形在住当事者の視点から～」の開催について

山形大学は、毎年6月に開催される「男女共同参画週間」（内閣府他）に賛同するとともに、男女共同参画及びダイバーシティへの意識改革を促進するため『LGBTQA 当事者のつまずきポイント』をテーマに山形大学男女共同参画及びダイバーシティセミナーを開催します。

【講演会開催事項】

日 時：6月25日（火） 14:40～16:20

会 場：Zoomウェビナーによるオンライン配信

講 師：SCUBA！（スクーバ）代表 カナグス 氏

対 象：教職員、学生、行政・企業の方、一般の方など、関心のある方

参加費：無料

申 込：別添チラシの申込みフォームよりお申し込みください。（申込締切は6月17日（月））

令和6年(2024年)5月9日

やまがた共創塾「やまがたモデル」を活用したカーボンニュートラル人材育成プログラムを開講します。

～自治体のカーボンニュートラル活動をempower～

【本件のポイント】

- 山形大学は飯豊町と共同で地域の温室効果ガス排出量を可視化するモデル「やまがたモデル」を構築した。[\(令和5年8月3日プレスリリース参照\)](#)
- 「やまがたモデル」は自治体が保有している既存のデータを用いて、地域の温室効果ガス排出量を可視化することができる。
- 「やまがたモデル」を活用できる人材を育成し、自治体におけるカーボンニュートラルを促進する契機を醸成する。



(左：後藤武蔵さん 右：小野優太郎さん)

【概要】

本学と飯豊町が共同で開発したカーボンニュートラル「やまがたモデル」を活用できる人材を育成するプログラムを開講します。

講師は飯豊町の地域おこし協力隊兼山形大学連携研究員（YU-SDGs 連携研究員）である後藤武蔵さんと小野優太郎さんを招聘するとともに、アドバイザーとして、本学農山村リジェネレーション共創研究センター教授で、「やまがたモデル」の構築を主導した林田光祐、他山形大学教員が参画します。

環境省のデータでは把握できない自治体ごとの温室効果ガス排出量を既存のデータを用いることで可視化できる「やまがたモデル」の概要や、温室効果ガス排出量を可視化することのメリット、可視化の計算方法を学ぶことができるプログラムです。

講師の二人が住民をどのように巻き込みながらカーボンニュートラルの取り組みを進めたのか、実体験を交えながらカーボンニュートラルを学ぶ貴重な機会ですので、是非、受講してください。

○プログラム概要

【対象】 山形県内及び近隣県の自治体職員（地域おこし協力隊含む）

【参加費】 無料

【期間】 2024年6月中旬～9月下旬（全4回）

【受講方法】 Online(zoom)及び対面（会場：山形大学小白川キャンパス）

【申込先】 <https://forms.office.com/r/cmrTbBHGGm>

【申込締切日】 2024年6月7日（金）

○プログラム詳細

【構成】

第1回：「やまがたモデル」の概要及び可視化するメリット[60分]（2024年6月14日 14:00-15:00）

第2回：可視化の計算方法（飯豊町の事例紹介）[60分]（2024年7月19日 14:00-15:00）

第3回：SDGs カードゲーム[180分・対面のみ]（2024年8月23日 13:30-16:30）

第4回：まとめ[60分]（2024年9月20日 14:00-15:00）

ホームページ：https://sdgs.yamagata-u.ac.jp/bulletin/information/detail_354.html

お問い合わせ

総務部総務課社会共創推進事務室（SDGs 担当）

TEL 023-628-4497 メール yu-sdgs@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

やまがた共創塾

「やまがたモデル」を活用した カーボンニュートラル人材育成プログラム

本プログラムは、温室効果ガスの排出量を自治体を持つ既存情報を用いて可視化することができる「やまがたモデル^{*}」を活用して自治体におけるカーボンニュートラルを促進する人材を育成します。

○プログラム概要

【対象】 山形県内及び近隣県の自治体職員（地域おこし協力隊含む）

【参加費】 無料

【期間】 2024年6月中旬～9月下旬（全4回）

【受講方法】

Online(zoom)及び対面（会場：山形大学小白川キャンパス）
（詳細は受講者確定後、別途連絡します。）

[申込先QRコード]

【申込先】

<https://forms.office.com/r/cmrTbBHGGm>



申込締切日：2024年6月7日（金）

【問い合わせ先】

国立大学法人山形大学総務部総務課社会共創推進事務室（SDGs担当）

電話番号：023-628-4497

E-Mail：yu-sdgs@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

※「やまがたモデル」は飯豊町と山形大学が構築した地域のカーボンニュートラルを実現するモデルです。詳細は[コチラ](#)

○プログラム詳細

第1回：2024年6月14日（金）14：00-15：00

「やまがたモデル」の概要及び可視化するメリット[60分]

第2回：2024年7月19日（金）14：00-15：00

可視化の計算方法（飯豊町の事例紹介）[60分]

第3回：2024年8月23日（金）13：30-16：30

SDGsカードゲーム[180分・対面のみ]

第4回：2024年9月20日（金）14：00-15：00

まとめ[60分]

【講師】



小野 優太郎（Ono Yutaro）※写真右

宮城県名取市出身。飯豊町地域おこし協力隊。
YU-SDGs連携研究員（ゼロカーボン推進員）。

東北大学大学院 環境科学研究科卒業。

石油精製会社入社し、運転管理・省エネ・効率化に従事後、IT会社へ転職し、システム開発に従事。

2021年10月から飯豊町地域おこし協力隊として活動。

2022年12月山形大学からYU-SDGs連携研究員の委嘱を受け、ゼロカーボン推進活動を行っている。

後藤 武蔵（Goto Musashi）※写真左

山形県飯豊町出身。飯豊町地域おこし協力隊。
YU-SDGs連携研究員（SDGs推進員）。

東北大学大学院 環境科学研究科卒業。

自動車会社へ入社し、生産技術部にて、部品の製造ライン立ち上げに従事。

2021年10月から地元である山形県飯豊町において、地域おこし協力隊として活動。

2022年12月山形大学からYU-SDGs連携研究員の委嘱を受け、SDGs推進活動を行っている。

【アドバイザー】



林田光祐（Hayashida Mitsuhiro）

国立大学法人山形大学 教授（農山村リジェネレーション共創研究センター）。
前副学長（国際交流・SDGs担当）
博士（農学）、専門は 森林科学。

山形大学SDGs タスクフォースのリーダーとして、学内及び地域のSDGs活動を積極的に支援する各種事業を担い、カーボンニュートラルを実現するための「やまがたモデル」の構築を主導。

適宜、他の山形大学教員もアドバイザーとして参画予定。

令和6年（2024年）5月9日

初心者向けドローン講習会Vol.3を開講 ～仕事等で利用を検討している方に向けた社会人向け講座～

【本件のポイント】

- 建設や測量、農業など、さまざまな場面で使われているドローン。本学でも、学術研究の实地調査などで利用されています。
- 今後は、より幅広く各種産業へ応用されることが予想されるなかで、ドローンに関する知識・技能を備えた人材育成を目的に、初歩的な講習を行います。
- 初心者を対象に、ドローンに関する制度、操縦、活用に関して講習を行います。講師は、本山功教授（理学部主担当）が務めます。



【概要】

空の産業革命とも呼ばれる無人航空機UAV、いわゆるドローンに関する法律が日本でも整備され、建設・測量・農業・防災・運輸・映像など各種産業への応用が進んでいます。ドローンに関する知識・技能を備えた人材育成のため、ドローンの法律・操縦・活用に関する初歩的な講習を行います。講師は、地質学・古生物学が専門で、学術研究の实地調査のためにドローンを活用している理学部主担当の本山功教授が務めます。

【開催要項】

「初心者向けドローン体験講習会」

【日時】 令和6（2024）年6月9日（日）9:00～16:00 [基礎知識・法律・制度等の座学、活用事例、操縦訓練]
令和6（2024）年6月16日（日）9:30～16:30 [屋内操縦体験]

※6月16日（日）は、9:30～16:30の内、いずれか1時間30分間の屋内操縦体験となります。

【場所】 山形大学小白川キャンパス理学部棟および体育館

【講師】 本山功（理学部主担当／専門 地質学・古生物学）

【受講料】 15,000円（ドローンレンタル費、フライトシミュレーター利用料、イベント保険料を含む）
※会場までの交通費は、参加者の負担となります。

【対象】 社会人 【定員】 12名

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

お問い合わせ

エクステンションサービス推進本部

TEL：023-628-4779 メール：yu-extension@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

初心者向け

ドローン

体験講習会 Vol.3

【こんな方におすすめ】

- ◎仕事や趣味にドローンを活用したい
- ◎ドローン購入を検討中で体験してみたい
- ◎ドローンに関する法律や制度を知りたい



空の産業革命とも呼ばれる無人航空機UAV、いわゆるドローンに関する法律が日本でも整備され、建設・測量・農業・防災・運輸・映像など各種産業への応用が進んでいます。ドローンに関する知識・技能を備えた人材育成のため、ドローンの法律・操縦・活用に関する初歩的な講習を行います。

講師 本山 功 (山形大学理学部 教授
災害環境科学研究ユニット長)

2024年
【日時】 6月9日(日)・6月16日(日)
※2日間のカリキュラムです。

【内容】 ●座学(3時間):法律や制度について、等
●フライトシミュレーターによる練習(3時間)
※平日を利用した自主練習も可能です。
●屋内操縦体験(1人1時間30分)

お申込み前にHPの募集要項を必ずご確認ください

【会場】 山形大学小白川キャンパス
※山形大学にお越しいただく際には、公共交通機関や近隣の有料駐車場などのご利用をお願いいたします。近隣の施設や店舗の駐車場は利用しないようお願いいたします。

【受講料】 15,000円 | ドローンレンタル費
シミュレーター利用料、含む

●申込方法

2024年 5月31日(金)AM8:30までに、エクステンションサービス推進本部のホームページからお申込みください(定員になり次第終了)

▶ <https://yex.kj.yamagata-u.ac.jp>



主催 |  山形大学 Yamagata University  YEX Yamagata University Extension service organization

協力 |  三協コンサルタント 株式会社  SEEM  山形大学 災害環境科学研究ユニット

●問い合わせ

YEX(山形大学エクステンションサービス推進本部)
電話:023-628-4779
メール: yu-extension@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



令和6年（2024年）5月9日

山形大学男女共同参画及びダイバーシティセミナー 『LGBTQA当事者のつまずきポイント～山形在住 当事者の視点から～』 を開催します

【本件のポイント】

- 本セミナーでは、LGBTQA当事者の方のお話をお聞きし、まず知ること、大学でできる支援は何かを考えていくこととして開催
- 山形大学主催、やまがた社会共創プラットフォーム高等教育機関連携部門「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」共催により開催

【概要】

山形大学は、毎年6月に開催される「男女共同参画週間」（内閣府他）に賛同するとともに、男女共同参画及びダイバーシティへの意識改革を促進するため『LGBTQA当事者のつまずきポイント』をテーマに山形大学男女共同参画及びダイバーシティセミナーを開催します。

本セミナーは、令和6年度全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロック南東北会議の研修会を兼ねておりますが、セミナーには、教職員、学生、行政・企業関係者、一般の方など、関心のある方はどなたでもご参加いただけます。多数のご参加をお待ちしています。



【講演会開催事項】

日時：6月25日（火） 14:40~16:20

会場：Zoomウェビナーによるオンライン配信

講師：SCUBA!（スクーバ）代表 カナグス 氏

対象：教職員、学生、行政・企業の方、一般の方など、関心のある方

参加費：無料

申込：別添チラシの申込みフォームよりお申し込みください。（申込締切は6月17日（月））

【全国ダイバーシティネットワークとは】

男女共同参画社会や多様な個性・能力が尊重されるインクルーシブな社会の実現のために、文部科学省と連携して、大学や研究機関、企業等における女性研究者の育成や研究環境・研究力の向上を目指す諸機関をつなぎ、国内外の取組動向や参考事例（グッドプラクティス）を収集・公開し、全国的な普及・展開を図る組織です。

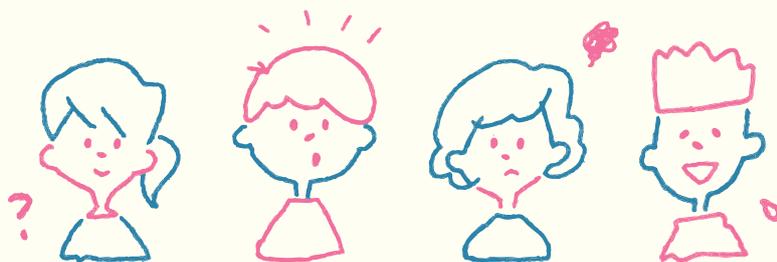
お問い合わせ
ダイバーシティ推進室
TEL：023-623-4939
メール：yu-y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

・ 山形大学男女共同参画及びダイバーシティセミナー ・

LGBTQA当事者の つまずきポイント

～ 山形在住当事者の視点から～

今回のセミナーでは、LGBTQA当事者が、山形をはじめとする地方都市で生まれ、大人へと成長していく過程でつまずきポイントを、実例に基づいた架空の人物の人生を例にあげながら、ご紹介します。性のあり方は一人ひとり異なり、多様な性のあり方を互いに尊重することが大切です。LGBTQA当事者の視点から、多様性を持つ社会を一緒に考えてみませんか？



【開催日時】

2024年6月25日(火)
14:40～16:20

【開催方法】オンライン開催

※お申込みいただいた方には前日までに参加用のURLをお知らせいたします。

【参加費】無料

講師紹介

SCUBA! (スクーバ) 代表
カナグス氏

山形市出身・在住。英日翻訳家。



2007年頃からLGBTQ当事者サポートのボランティア活動を始め。2013年に友人発案の元、共に当事者交流サークルを創設。2023年からは山形市内を中心とした当事者サポート団体「スクーバ!」を発足。多様性を持つ社会を目指し、有志と共に、山形県内の当事者、及び外国ルーツを持つ当事者向けのイベントや勉強会を開催している。

※全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロック南東北会議研修会を兼ねています。

申込
方法

下記URL、または右記二次元コードからお申し込みください。
申し込みフォームが開きます。

▶ <https://forms.office.com/r/FvYw9SGJa8>



〈申込締切〉令和6年6月17日(月)

〈問い合わせ〉山形大学ダイバーシティ推進室
tel.023-628-4939

【主催】国立大学法人山形大学

【共催】やまがた社会共創プラットフォーム高等教育機関連携部門「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」